

ASEAN 8・6 福田歴訪を爆碎せよ



7. 15共産同大政治集会、300の結集で圧倒的に成功

游擊文庫

共産主義者同盟政治機関紙

第34号

1977.8.5

特価 200円

人所
行先
連絡
振替
10回2000円(開封・送料共)
2500円(密封・送料共)

今春期激闘・共産同大政治集会の 全成果を打ち固め

8・27 共産主義革命戦線総決起集会へ！

全国の闘う同志友人諸君！
今日、東アジアの階級情勢を規定する朝鮮人民、インドシナ
人の革命闘争は、いよいよもつて決定的發展を実現せんとして
いる。

朝鮮労働党と共和国人民の社会主義建設と継続革命の貫徹、
さらに南朝鮮人民の人民民主主義革命が「南北自立統一」の闘
いの結合によつて、朝鮮半島の革命的階級情勢は、増え深
まりを開始しようとしているのである。さらに又、インドシナ

人民、ASEAN諸国人民の民族解放・社会主義革命闘争は、
あの4/30以来、貫してアジアの階級闘争の攻勢的基調を發展
させつづけているのである。

今や帝国主義体制とアジア支配構造は、決定的守勢を余儀な
くされにもかかわらず、日本帝国主義は角逐を深めつても

最後の絶望的な侵略反革命のまき返しを図らんとしている。

日帝は、朴軍事独裁政権の物質的基礎の比重を「層擴大させ、
朝鮮新植民地化攻撃を米帝との合意の「カーター戦略」と撤退問
題」の下に推し図り、他方で、8/6 ASEAN開催による再
建、ASEANの軍事・経済的掌握、さらにインド亜大陸およ
びインド洋にいたるまでのソシ帝との「アジア安保」をめぐる

霸權抗争をも含む展開等々をなしつげんとしているのである。
だがこうした攻撃と巻き返し策動にも拘らず、世界プロレタリ

アートの攻勢的基調は変わらず、先進国・中進国・植民地從属

國人民の内乱的激成は、社帝足下を含む三テロック階級闘争の
新たな転位を次々とくりだしているのである。かかる中に日

本階級闘争の構図の新たな歴史的転換軸がある。
日帝はこんにち、国内階級矛盾の激成・階級闘争の革命的情

れ、朝鮮で新たな戦争を起した際、日本反動層に「利権確保」

☆ 帝国主義の腐朽性に抗し、社会主義・社会排外主義と対決して世界革命の最前線へ！
☆ 帝国主義心臓部にプロレタリアートを爆碎せよ！
☆ 帝国主義侵略反革命を国内戦へ！
☆ 帝国主義心臓部にプロレタリアートを爆碎せよ！

今号 内容

☆ 破防法・刑法改「正」粉碎集会へ

☆ 関東学院大生協闘争

☆ 二里塚・朝鮮・鞍山の激闘

☆ 釜山・大邱・ソウルの抗争

新たな党的武装に向けて

日帝の朝鮮侵略反革命と天皇制攻撃を頂点とした奇襲的内戦鎮圧反革命攻撃に総反撃せよ

朝鮮労働党と北朝鮮人民の社会主義路線を断乎支持し、南鮮人民の民族解放・人民民主主義革命を含む総統革命の一環として、南北自主統一への革命的人民の決起に支持・連帯し、それとの結合を通して、日帝の朝鮮侵略反革命を国内戦に転化する翻いこそ、今日の第一級の日本プロレタリア人への政治的責務である。日帝の軍事的支柱、社会的支柱を貢ねいた終峰起路線の物質化として、攻勢的建設の躍進的転質がより一層問われているのである。

今や世界帝国主義体制と各国の支配構造は、根底的動搖と体制的危機の亀裂、深化の渦に立たされているのである。同時に、ノド帝に従属する諸国においても、矛盾が激化し人民の憤慨が高まっている。この情勢を規定しているのは、ベトナム革命の勝利を頂点とした後進国、従属国の民族解放闘争の牽引的前進である。世界的規模にわたるプロレタリア人への攻勢的基本調は、先進諸国・中進国においては、一時は一定程度権力に押さえこまれ、封じこめられていた革命派と革命勢力の再浮上と新たな勝利の前進の局面に突入しつつあるのだ。

帝国主義の瓦解の危機と三ロック階級闘争の新たな激成の頂点的闘いとしてあるのが、南朝鮮人民の決起である。これは当然にも、現下の日本階級闘争の根本的構図の転換点として歴史的位置にあるのだ。この事をより鮮明にするために、南朝鮮人民の不屈の決起と不屈の革命闘争の歴史的過程を対照化することが必要である。

まず第一に、戦後ヤルタ体制の確立としてあつた、南北分断の固定化、とりわけ南朝鮮の米帝による軍事占領と新植民地支配は特に五四年以降、对中国反革命封じこめと、朝鮮・ベトナムの南北分断を通じて、アジア反共軍事支配・新植民地体制攻撃の大拠点として打ち固めとしてあつたのである。しかし、朝鮮人民の闘いは、戦前の二・独立蜂起の精神を継承し、六〇年四・一九人民蜂起・学生革命を中心とした南北自主統一の高まりの中で、売國奴李承晚カライ政権の打倒闘争へと發展した。それに対して米帝は六一年五・六朴の軍事クーデターで反革命的に压殺し、米占領体制の維持と存続のために朴に反革命軍事政権を樹立させた。

米帝は、余剰生産物を導入し、民族経済、主要是農業の徹底的破壊を行つた。農民は、より一層の零落を持たされた。南朝鮮人民の決起はこの様な疲弊、窮状を打破し、民主的、民族自主建設との結合の中に求め、南北自主統一を目指とした反米救國の闘争としての性格を持つていたのである。この闘争を担つて南北自主統一の革命勢力に強大的大弾圧をしつつ、機動隊との激突をくり返した。(広州台地暴動)また、「韓米」

米帝との角争を通しての日帝の朝鮮再侵略は、米帝の承認のもとに押しすすめられてきた。それは実質的に、米日「韓」の反革命臨戦体制の確立を日帝を組みこむことにおいて成立されたのである。日「韓」条約の締結がまさにそれである。

日帝の新植民地化攻撃は、当然にも民族経済の自力的発展、資本主義的発展を妨げ、「経済的危機、社会的貧困をいややす」というのが、「韓國経済の完全な破壊・強収奪」を行ない、日本によると、南北分断の一大キヤンペーンのものに押さえこまれ、封じこめられていた革命派と革命勢力の再浮上と新たな勝利の前進の局面に突入しつつあるのだ。

日帝の軍事的支柱、社会的支柱を貢ねいた終峰起路線の拡大は、高利貸化と債務奴隸化する構団は、朴に半植民地的強取に釘付けされた工業労働者の増大と、国内市場の停滞は、民族零細資本をも犠牲にし、日本独占資本と結託し、肥大化する少數買主資家の財閥化と朴軍事独裁体制の財源を支えているのである。この様な事態の加速度的進行の中で、朴政権はセマウル運動を開拓しているが、所詮農村に対する

治安と収奪構造をK.C.I.A.在郷軍人が先行的に促進しているにすぎないことは明らかである。また朴政権は、「土地收用法」を定め、軍用地拡張のために約三年間(六八・七〇年)で総耕地の12%を没収しているのである。このセマウル運動に、日帝は朴の要求に応え、「農業開発資金」を名目で五万ドルを融資し、その見返りとして、特に三菱系列下の企業を中心とした中小資本買主の資本を高め、絶望的な出口なき階級矛盾をかかえて、反共法の南北分離せば、中国・キーパー、ベトナムの革命的勝利が典型的に組合幹部糾弾、外国企業の横暴糾弾、セマウル強制労働廃止等、芝河氏の処刑策動などを含め、増え非和解的対決へと南朝鮮人の決起は煮つまつているのだ。更にこの様な朴を公然と支援する公判で、金大中氏等二八名の被告に対し、懲役五年等の有罪判決にみられるごとく、「民青字連事件」「人民革命党事件」、金芝河氏の処刑策動などを含め、増え非和解的対決へと南朝鮮人の決起は煮つまつているのだ。更にこの様な朴を公然と支援する

公判で、金大中氏等二八名の被告に対し、懲役五年等の有罪判決にみられるごとく、「民青字連事件」「人民革命党事件」、金芝河氏の処刑策動などを含め、増え非和解的対決へと南朝鮮人の決起は煮つまつているのだ。更にこの様な朴を公然と支援する

公判で、金大中氏等二八名の被告に対し、懲役五年等の有罪判決にみられるごとく、「民青字連事件」「人民革命党事件」、金芝河氏の処刑策動などを含め、増え非和解的対決へと南朝鮮人の決起は煮つまつしているのだ。更にこの様な朴を公然と支援する

(下)

の確立をより一層かりたるのに必死になつてゐるのである。この様な体制下にあって、一二月・四日には金芝河氏に懲役五年の求刑、更にソウル高裁において「民主救國軍宣事件」「人民革命党事件」、金芝河氏の処刑策動などを含め、増え非和解的対決へと南朝鮮人の決起は煮つまつているのだ。更にこの様な朴を公然と支援する

公判で、金大中氏等二八名の被告に対し、懲役五年等の有罪判決にみられるごとく、「民青字連事件」「人民革命党事件」、金芝河氏の処刑策動などを含め、増え非和解的対決へと南朝鮮人の決起は煮つまつしているのだ。更にこの様な朴を公然と支援する

公判で、金大中氏等二八名の被告に対し、懲役五年等の有罪判決にみられるごとく、「民青字連事件」「人民革命党事件」、

